

# 菊陽人 りさーち



たかぎ あやな  
**高木 彩名さん**  
(10歳・緑ヶ丘)

- 趣味  
縄跳び
- 将来の夢  
ピアノの先生
- 自慢できること  
足が速い
- 今一番やりたいこと  
料理がしたい

「菊陽人りさーち」に掲載を希望される人は、はがきに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先(昼間)」を明記のうえ〒869-1192菊陽町役場総合政策課「菊陽人りさーち」係までお送りください。  
注)掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している人に限ります。親子、祖父母と孫など2人1組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらからご連絡させていただきます。



なべしま かな  
**鍋島 佳奈さん**  
(7歳・大堀木)

- 趣味  
料理をすること
- 将来の夢  
料理の先生
- 自慢できること  
頭が良い
- 家族へのお願い  
ペットを飼いたい

# 人権のひろば

## ◆人権標語

「友だちの かげ口 悪口 言わないで」 武蔵ヶ丘北小学校5年 辻畑 咲乃  
「考えて 今の行動 相手の気持ち」 武蔵ヶ丘小学校 6年 藤森 健太

子どもの目、子どもの声  
**子ども  
人権集会報告  
【No.45】**

問い合わせ  
人権教育・啓発課  
☎232-2113

部活差別をはじめあらゆる差別をなくす

## 第28回 菊陽町人権子ども集会

菊陽町人権子ども集会が12月1日、菊陽町民体育館で開催されました。

この集会は「もったいなくまのこころをこころ、自分のできることを行動に移し、身のまわりの差別をなくしていく」「なまのこころを上げていこう」と、子どもたちが自分たちで企画し実施する集会です。今年は菊陽中部小、菊陽北小、菊陽南小、武蔵ヶ丘中の4校がステージ発表し、約1,000人の参加がありました。



武蔵ヶ丘中学校の劇



菊陽北小学校の発表



菊陽南小学校の発表



司会の中学生

開会にあたり実行委員長(菊陽中)が「発表を聞き、各学校の課題をどうやって解決していくか、しっかりと考えよう」とあいさつ。



菊陽中部小学校の発表

ステージでは「平和への願い」「太陽山びこ解放子ども会」の学習「人権学習の取組」「人間としての誇りと尊厳を守るために立ち上がった」「汚染め一揆」など、学習したことを歌や構成詩、劇で表現した発表がありました。

展示では、人権啓発ポスター・標語、保育園児が描いた生活画をはじめ、環境、平和、人権などをテーマにした展示物が掲示されました。



集会宣言

集会の最後には「差別をなくすなまのこころを増やし、差別をなくす行動をしていこう」という集会宣言文が読み上げられました。

参加者のひとり、川俣 桃香さん(菊陽中学校3年)は、「私は、町人権子ども集会の実行委員になり、武蔵ヶ丘中と町内の小学校と5回の準備委員会と実行委員会での今回の集会についての話し合いをしてきました。実際に人権集会に参加して、みんなからいじめや差別をなくそうとする強い思

## 人権ってなあに シリーズ2

### 「子は親の鏡」



幼い頃、親から教えられたことや物の見方、捉え方は、もしそれが誤りであったとしてもなかなか改められないものです。

人々の持つ差別意識には、家庭という場での一つのかたがたに伝えられたものがあります。

勉強や成績のことで、いつもきょうだいで比較されて育った子は、次第に「勉強ができないやつはだめなやつ」という意識を心の中に持ってしまう。そして、自信を失い自尊心をなくしていくことにもなります。

親として子どもの幸せを願うあまり、結果として逆に子どもを差別することになったり子どもを傷つけてしまったらりしていることはないでしょうか。

「あの子に負けるな」「あの子と遊ぶな」などという言葉は子ども同士の間を切ってしまうだけでなく、子どもの心に差別心を植え付けることにもなります。

差別の相対人をつくらないために、親がまず日常生活の中にある差別に気付く、進んで差別をなくしていく行動を起こしていくことが必要であると思います。

## 菊陽句会報

## きくよう文芸

日向ぼこ母に似し手のつめを切る  
どんぐりや帽子かぶりて草の中  
冬薔薇視線を超えて咲きにけり  
大根干す幼子両手を天に上げ  
対局のライバル咳を二つする  
うす墨の小雨の向かう谷紅葉  
葉塚の影長々と阿蘇暮るる  
初生りの柿を愛であて熟柿まで  
初燂焼く匂ひ残して日は暮るる  
黄葉のトンネル母の手をひきて  
孫も子も走り芒野なごやかに  
鯛雲駅伝大会見下ろして  
ときばきと捌く介護士日短

杉村 凡裁  
坂本百合子  
田中 郁子  
井 子文  
財津 早雪  
原野レイ子  
力 幸子  
寺尾千代子  
高橋 孝子  
堀川 妙子  
福田 貴子  
佐藤 健  
佐藤 節

狭庭今石露の盛りの一と色に  
秋の苑人馴れ鴉ねだり顔  
訪ふ鳥を日々の友とし木守柿  
我が余生ふと問ひたしや芒原  
コンバインライト灯して稲刈れり  
柿すだれ日向の縁に妣の見ゆ  
新築の木の香の温み菊日和  
良夜かな我に付き添ふ影一つ  
酔ふたびに軍歌を唄ふ寒さかな  
秋夕焼才レンジ色の飛行雲  
天をつく銀杏の雄姿兒徳ぶ  
寒波来るニュースや木の葉映しつ

吉野 早苗  
井上久美子  
日高 妙子  
曾我 育代  
曾我トモ子  
紫藤 祥子  
村上 朋子  
野口 令史  
松橋 強  
小中 栄  
藤本 純子  
佐藤 澄世

## 短歌会

限りなき青空めざし銀杏は届けどばかり黄色に輝けり  
半分に切りし白菜その芯の黄にあざやかに輝いており  
つきるなき生活の道の農なればおだやかにせよ老いてわが妻  
輝きは星より届きて幾光年未知なる空は果てなく遠し  
遠く住む孫の電話の明るさに健やかにしと床に就きたり  
うべの実は赤紫に熟したり夫は吾にと一つもぎ取る  
一斉に吾を見つむる子供達「ジャックと豆のつる」今日の語りは  
月の夜の夜汽車の音のわびしかり青き庭辺の静もりのなか

今村 貞子  
梅田 國雄  
河北 幸一  
菊川あさみ  
佐藤せい子  
下田 久子  
中村トシエ  
山川 カツ